

平成20年5月、徳山ダムとの本格的な連携運用がスタート。

昭和39年、横山ダム誕生

横山ダムは、治水や水資源開発に対する地域からの要請により建設されました。昭和26年から岐阜県による調査が始められ、昭和28年からは所管が建設省（現・国土交通省）に移り、昭和34年に工事着手。昭和39年に完成しました。昭和39年は東京オリンピックの開催、東海道新幹線の開業、前年には名神高速道路が開通した、高度経済成長期と呼ばれる時代です。

横山ダムの再開発や徳山ダムの建設

近年、異常気象とよばれるような不安定な気象状況により、局所的な集中豪雨や水不足による被害が全国で発生しています。完成から半世紀となる横山ダムでは、湖内に貯まった土砂を掘削してダム機能の回復を図り、更に洪水調節のための容量を増加させる「再開発事業」を展開し、パワーアップを図りました。また、横山ダムから約10km上流の徳山ダムと連携することで、治水・利水の機能がさらに強化されました。



昭26 岐阜県「多目的ダム調査」に着手

昭28 直轄事業として建設省が調査着手

昭32 横山ダム調査事務所開所

昭34 横山ダム工事事務所に改組

昭34 ダム工事着手

昭37 「起工式」

昭39 ダム完成「竣工式」

昭39 ダム管理を開始・横山ダム管理所に改組

昭40 管理開始以降、最大の流入量（約2,500m³/s）

平2 横山ダム再開発事業に着手

平3 横山ダム工事事務所に改組

平6 異常渇水によりダム湖枯渇

平7 「地域に開かれたダム」に指定

平20 徳山ダムとの連携運用を開始

平23 横山ダム再開発事業完了

平23 木曾川上流河川事務所内の組織に改組

平23 奥いび湖大橋開通

令3 木曾川水系ダム統合管理事務所内の組織に改組



平成6年の異常渇水



建設初期



完成間近／試験湛水中（上流より）



完成間近／試験湛水中（下流より）

横山ダム周辺施設の紹介

神岳ダム
（イビデン）



神岳ダム

イビデン 川上発電所
（最大出力：4,100kW）



坂内川貯砂堰

ダム湖への土砂流入の軽減を図る等、堆砂対策として設置しています。

徳山ダム

中部電力 徳山発電所
（最大出力：161,900kW）

徳山1号放流水路

イビデン 東杉原堰堤



水質観測所

ダム湖の水質を管理するため、流れ込む河川の水質を観測しています。



久瀬ダム

久瀬ダム
（中部電力）

中部電力 久瀬発電所
（最大出力：17,000kW）



水位観測所

ダム湖に流れ込む川の水位を計測しています。



イビデン 東横山発電所



西平ダム

西平ダム
（中部電力）

中部電力 西平発電所
（最大出力：10,000kW）

グリーンなエネルギー「水力発電」

豊富な水量と建設に適した地形から、揖斐川本川や支川では昔から水力発電所がつくられてきました。自然界の水の循環を利用したグリーンなエネルギーである『水力発電』。徳山発電所が完成し、揖斐川では合わせて約28万kW（最大出力）が発電されます。

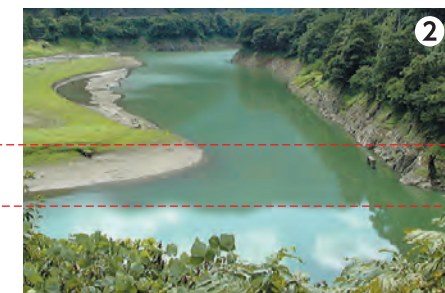
横山ダム再開発で洪水調節容量を増量

横山ダムのある揖斐川上流域は、比較的脆弱な地質が多く見られることに加え、1年間の降雨量が3,000mmを超える多雨地域のため、豪雨により大量の土砂が貯水池内に流れ込んでいます。このため平成11年時点で、すでに計画堆砂量の1.13倍に達していました。平成2年度から平成22年度まで実施した『再開発事業』では、約297万m³の土砂を掘削し、洪水調節に必要な容量2,960万m³を確保しました。

■ダム貯水池の堆砂状況の移り変わり（鬼姫生橋跡付近）※ダム上流4.5km



ダム建設前（昭和35年）



掘削工事前（平成13年）



掘削工事後（平成23年）

鬼姫生橋の主塔
ここまで土砂が貯まりました

土砂掘削により
貯水容量を確保しました